

かたりべ46

豊島区立郷土資料館だより



ご苦労さま！ 文芸坐！

一九九七年三月六日、名画座の老舗、文芸坐が休館となりました。最後のプログラムは「戦前日本映画大回顧展」で、

最終日の上映作品は黒沢明監督の「一番美しく」（一九四四年・東宝）と成瀬巳喜男監督の「歌行燈」（一九四三年・東宝）でした。

文芸坐は一九五五（昭和三十〇）年の設立当初から独自のプログラムで数々の名画を上映し、多くのファンを持っていました。姉妹館である人世坐や弁天坐なきあと、数々の名プログラムや疑った企画で名画を上映し続け、他とは違う名画座としての地位を確立していきました。

ことに中国映画祭の開催、若手監督の作品やATG作品の上映などは、映画文化そのものを支える貴重な存在でもあり、「映画の街、池袋」にある数多くの映画館の中でも異彩を放つ名画座でした。

また、文芸坐の建物では映画館の他、「文芸坐しね・ぶていっく」や「文芸坐ル・ピリエ」が開設され、落語会の開催など、東京の文化拠点のひとつとして活躍しつづけてきました。

ところが残念なことに、建物の老朽化の進行により、この度休館を余儀なくされました。休館に伴って、文芸坐のご好意で、モギリのカウンターやプログラム案内板、かつて姉妹館であった人世坐の事務服などを含む四〇〇点余りの貴重な資料を郷土資料館にご寄贈いただきました。これらの資料の一部を七月五日（土）からの収蔵品展（同時上映ならぬ同時展示は「豊島区焼失」）で展示致します。

「伊藤」

『豊島区焼失』のご案内

今年もまた、「戦争を考える夏」がめぐってきました。当館では、開館当初から毎年、戦争に関する特別展・企画展を開催してきました。そして、一昨年はこれまでの戦争関連展示の集大成という意味も込めて「戦争と豊島区」と題した特別展を開催しました。もちろんこれで戦争関連の特別展・企画展を終わらせたわけではありません。歴史講座「戦争体験継承講座」とともに今後とも継続していく予定です。今年も、当館に収蔵されている空襲関連の資料を中心として「豊島区焼失」と題して収藏品展を行ないます。展示の概要と予定している展示資料は以下の通りです。

一、踏みとどまって消火せよ！
最初のコーナーでは、隣組を母体として行なわれていた家庭防空計画と防空訓練に関する資料を展示いたします。空襲に備える「防空法」は今から六〇年前の一九三七（昭和一二）年に制定されまし

た。それに基づいて体制を整えられたのが家庭防空計画で、町会を単位として防空訓練などが行なわれていました。今回は、江戸東京博物館に所蔵されている雑司ヶ谷町会の防空関係の資料などを展示いたします。

二、町は火の海

ご存じの通り、豊島区域の被害が一番ひどかったのが一九四五（昭和二〇）年四月一三日の空襲です。このコーナーでは、この時に被災した資料を展示いたします。毎年のように戦争関連の展示を開催しているためか、豊島区の被災資料は他区に比べて豊富です。今回も、焼けて炭になった米とお櫃やガラスビン、和鏡、財布、硬貨、焼けた天井板も展示します。また、今回の展示では、「戦争と豊島区」以後に開始した豊島区空襲関連調査の成果についても一部ですが展示する予定であります。豊島区の空襲をより具体的な形で見ていただけることと思えます。

三、焼け野原

このコーナーでは、空襲直後に撮られた貴重な数々の写真の他、最近区内での存在が確認された簡易住宅（バラック）の建築関係の資料を展示します。

展示期間 七月五日から九月二八日

* * *

展示に合わせて、戦争を考える講座も開催いたします。今年のテーマは「アジア太平洋戦争とアジアの独立」です。毎年恒例となりましたビデオ上映を含んだ連続講演会です。

◆日時 七月二六日、八月二・九日
(毎土曜日、午後二〜四時)

◆会場 豊島区立勤労福祉会館

第六会議室

◆講師 社会教育指導員 青木哲夫

学芸員 伊藤暢直

「青木・伊藤」

山手線の歴史的建造物をたずねて

昨夏の地域史講座「江戸・東京のまちづくりを探る」(第六回)では、JR東日本の贄田秀世氏を講師に迎え、山手線の歴史的建造物を探索しました。

豊島区では戦後の急激な開発によって明治・大正期の構造物は失われてしまったと考えていましたが、山手線にも意外に面白い土木遺産が残っていることがわかりました。しかし、これらの多くは架け替え工事により、近く消滅する運命にあるのです。

そこで土木遺産の見どころをいくつか紹介して、豊島区のまちづくりを探ってみたいと思います。

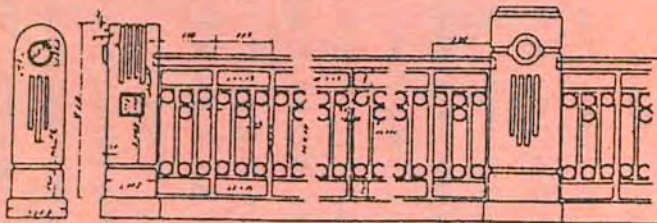
① 目白橋 (高田跨線道路橋、目白駅前)の欄干

山手線の貨物線(複線)の建設に伴い大正一二(一九二三)年に架け替えられた橋の欄干で、御影石の親柱・間柱と鋳物の手すりにしやれたデザインが施さ

れています。駒込駅の北口(駒込二二二)にこれとよく似た駒込橋の欄干が移築保存されており、同じ時期に造られた「兄弟橋」と思われます。現在目白橋は架け替え工事中で、来夏に欄干が取り外される予定のため、資料館では部分保存の可能性を検討しています。

② 長崎道踏切と西武の跨線道路橋

南池袋一丁目と目白二丁目の境をなす踏切は、かつて長崎村から神田市場に蔬菜を運ぶ農道で「長崎道」と呼ばれ、地域住民の重要な生活道路でした。現在は「開かずの踏切」となっており、横断橋を架



目白橋の欄干図 贄田秀世氏提供



長崎道踏切と跨線道路橋
「高田町史」一九三三年より

ける計画が進んでいます。また山手線に架かる武蔵野鉄道(現西武鉄道)の煉瓦造の橋台(イギリス積み、大正四年築)も、老朽化のため架け替えの計画があり

ます。

③大塚架道橋（大塚一丁目と二丁目の境）

大塚駅の東側を南下していた谷端川（現暗渠）に架かる煉瓦造の橋台は、目白一田端間の開通に伴う明治三五（一九〇二）年築の部分と、貨物線（複線）の建設に伴う大正一一年築の部分からなっています。桁橋は昭和二（一九二七）年架設で、騒音防止のため鉄桁の上にコンクリートが施されています。

④江戸橋跨線道路橋（巣鴨一丁目と南大塚一丁目の境）

大塚駅―巣鴨駅間に架かる大正一四年築の橋で、鉄桁にコンクリートが巻き付けられた、当時としては手の込んだ構造となっています。これは強度を持たせるための工法と思われます。その兄弟橋に文京区境の染井橋がありますが、両橋とも老朽化が進み、江戸橋は来年一月に架け替え工事が始まる予定です。「横山」

* * *

郷土資料館なんでもQ & A

Q：豊島区にゆかりのある武士豊島氏は水軍を持っていたと聞きましたが？

A：豊島氏を「水の武士団」と呼ぶことは的確かつ魅力的な表現だと思います。豊島氏が鎌倉幕府より守護に任命された紀伊国（現和歌山県）と土佐国（現高知県）の位置を考えてみましょう。武蔵―鎌倉―紀伊―土佐を結ぶ太平洋航路を意識した配置が窺えます。なかでも紀伊半島は太平洋に突出しているため、航海上特に重要な土地で、源平合戦においては源義経の勝利を決定付けた熊野水軍の本拠地としても有名でした。つまり、豊島氏の水軍的能力は幕府から期待されるものだったことがわかります。

また豊島経泰が創建したと伝える日暮里諏訪神社の祭礼では、神輿を舟に載せたといえますから、これなどは「水の領主」豊島氏という具体的イメージが地域に残ったものと言えるでしょう。

普通源氏と平家の対比でおなじみのよ

うに、西の舟に対して東の馬とよく言われます。しかし伊豆北条氏や相模三浦氏を見るまでもなく、関東武士団にあって彼らの水軍的ありかたはごく一般的だったようです。武蔵国出身の豊島氏もその例に漏れないことは意外ですが、これまでは馬に乗って狩りをし、草深い武蔵野を開拓した領主というイメージが強すぎたからでしょう。

「今野」

恒編 集束 後記

・自家製「かたりべ」第一号ができました。前号でお知らせしましたとおり、今年度の事業運営は厳しい状況となり、そのためにこのような体裁かと思いましたが、今後もしもなごまご意見をお寄せいただき、内容の充実に努めてお届けしたいと思っております。次号は増頁する予定です。新しい編集子ともどもよろしくお願ひいたします。

（福岡）

か たり べ
No. 4 6
1997年6月25日
豊島区立郷土資料館
豊島区西池袋2-37-4
電話03-3980-2351
豊島区広報印刷物
L30-09-076